

1 提案の概要

(1) 主張点

- ① 書くことに苦手意識の強い児童も、手順に沿って取り組めば、構成を工夫した物語が自分にも書けるという自信をつけることができる。
- ② 「読むこと」と「書くこと」を関連付けて指導することで、『不思議な世界の物語』を書くために、複数の物語作品から学んだ人物設定や「発端－展開－山場－結末」の場面構成を効果的に用いたり、表現を工夫したりする力と態度を育てることができる。
- ③ 学び合いの視点を明確にし、各自の読書経験から読みの視点を広げるとともに、ワークシートや交流形態を工夫することで、目的意識をもち、主体的な豊かな学び合いができる。

(2) 具体的な実践

① 「物語のよさを見つけよう『注文の多い料理店』」の学習指導

- ・ アイテムブックの活用

「注文の多い料理店」や他に読んだ物語から、見つけたおもしろさの秘密をシートに書いてインデックスを付けてまとめる。友だちのカードが自由に見られるように掲示する。物語を書く活動で活用する。また、次の学年に持ち上がって参考にできるようにする。

② 「不思議な世界の物語を書こう」の学習指導

- ・ 「読むこと」の学習を振り返って学習計画を立てる。(設定→構成メモ→見直し)

③ 課題意識をはっきりさせて目的をもった学び合いにするための工夫

ア 自分の考えをもって、友だちと交流

イ 交流しやすいワークシートの工夫

- ・ 展開部分を4つの場面に区切って見直し、書き直した展開部分を上に貼り付ける。
- ・ 自分の案・友だちの案・決定した案や、悩んでいる部分を記す振り返り欄を設ける。

ウ 「聞かせてポイント」として「だれに・どんなことを聞きたいのか」を示して交流

- ・ 「聞かせてポイント」を発表し合い、全員が自分の課題を板書に明示して交流する。

エ いろいろな形態で交流

- ・ テーマ別グループでの交流とオープンでの交流

2 成果

- アイテムブックを活用することで、児童たちは根拠を明らかにしながら「おもしろい」と思ったところを集めることができる。学びの足跡が残ることで、児童が自分の学びを自覚することができるので学習への意欲の高まりも期待され、アイテムブックは価値ある物である。
- 書くことの活動の中で、「自分の課題」を明確にさせたことで、児童がそれぞれの必要感に応じて、「注文の多い料理店」や他の作品に返ることができた。
- 展開の部分を4つに分けてあるワークシートの工夫により、展開がパターン化されて他の作品と比べやすいものになり、児童が自分の作品を客観的に分析する助けとなった。
- 交流の際に「聞かせてポイント」を板書で明示していたことで自分にとって必要な物を自覚し、目的意識や必要感がしっかりある中で交流活動ができた。

3 課題

- 相手意識を課題に合わせ、評価者となり得る交流相手という視点で教師が意図的にその相手を選ぶとよい。